

## 企画セッションプログラム

セッション	日時	タイトル (企画責任者)
1	12月6日(月) 13:00 ~ 14:30	<b>ローカルSDGs 推進による地域課題の解決に関する研究</b> 主: 松井孝典(大阪大学) 副: 川久保俊(法政大学)・増原直樹(兵庫県立大学)
2	12月8日(水) 10:00 ~ 11:30	<b>各国の気候変動緩和に関する法政策について</b> 主: 大塚直(早稲田大学) 副: 奥真美(東京都立大学)
3	12月9日(木) 10:00 ~ 12:00	<b>三宅島2000年噴火以降の生態系回復過程のモニタリングとその課題</b> 主: 加藤 和弘(放送大学)

開催形態: オンライン(ライブ配信)

**参加にあたっての注意点**

## 〈参加登録・通信環境について〉

- ・参加にあたっては大会サイト ([https://www.ceis.or.jp/sympoinfo\\_2021.html](https://www.ceis.or.jp/sympoinfo_2021.html)) から参加手続きをお取りください(参加費は無料)。
- ・当日の運営・進行は各セッションの企画責任者にお任せしています。**セッション時の通信トラブルなどについては、大会事務局では対応できませんのでご了承ください。**
- ・安定したインターネット接続環境下で聴講ください。

## 〈その他〉

**企画セッションの録音・録画・スクリーンショット等は、オーガナイザーの許可のない限り禁止といたします。**

- ・会場に入られる際には、「名前」をフルネームに設定してください。  
(イニシャルや苗字のみでの参加は会場運営に支障が生じる可能性がありますのでご協力ください)
- ・セッション中は、マイクを「ミュート」、カメラを「オフ」にしてください。
- ・質問時には、オーガナイザーの指示に従いマイクを「オン」にしてください。

## 【セッション1】

開催日時	12月06日(月曜日) 13:00~14:30
タイトル	ローカルSDGs推進による地域課題の解決に関する研究
企画責任者	主：松井孝典(大阪大学) 副：川久保俊(法政大学) 副：増原直樹(兵庫県立大学)
趣 旨	ローカルSDGsの策定支援を通じて地域課題の解決に貢献するためのプラットフォーム開発の研究事例を紹介する。(1)ローカルSDGsに取り組む自治体関係者への情報提供、(2)ローカルSDGsに関する各地域の取組状況や成功事例の共有、(3)ニーズ・シーズのマッチングによるオープンイノベーションの誘発、(4)SDGsオープンイノベーションプラットフォームを活用した研究成果の社会実装など、環境研究総合推進費1-2104プロジェクトの成果を報告する。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロジェクトの紹介 法政大学 川久保 俊(5min)</li> <li>2. 川久保俊(法政大学)：自治体における課題解決に資するSDGsオープンイノベーションプラットフォームの開発(10min)</li> <li>3. 増原直樹(兵庫県立大学)：地域におけるSDGs実装評価研究(10min)</li> <li>4. 松井孝典(大阪大学)：Society 5.0 for ローカルSDGsのためのデータ駆動科学の展開と知能情報システムの開発(10min)</li> <li>5. オンラインSDGsプラットフォーム：Platform Cloverの紹介(15min)</li> <li>6. トピックトーク(30min)</li> <li>7. ディスカッション(10min)</li> </ol>

## 【セッション2】

日 時	2021 年 12 月 8 日 (水) 10 : 00 ~ 11 : 30
タイトル	各国の気候変動緩和に関する法政策について
企画責任者	大塚直 (早稲田大学)・奥真美 (東京都立大学)
趣 旨	2020年10月、菅総理は、所信表明演説において、わが国が2050年までにカーボンニュートラルにすることを目指すことを宣言し、また、2021年4月、2030年度までに(2013年度比で)46%削減することを宣言した。諸外国においても、120か国以上の国々と地域が2050年目標として同じ目標を打ち出しており、中国も2060年に実質的にGHGの排出をゼロとすることを表明した。国際的には、2016年11月のパリ協定の発効等が重要である。こうした中、諸外国の気候変動緩和の法政策を参考にし、わが国の法政策を推進する必要性が高まっている。本企画はその一端を示すものである。
内容 (予定)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大塚直 (早稲田大学教授) 企画の趣旨</li> <li>2. 奥田進一 (拓殖大学教授) 中国の気候変動緩和に関する法政策</li> <li>3. 奥真美 (東京都立大学教授) イギリス及びEUにおける気候変動緩和に関する法政策</li> <li>4. 勢一智子 (西南学院大学教授) ドイツにおける気候変動緩和に関する法政策</li> <li>5. 石野耕哉 (中央大学教授) アメリカにおける気候変動緩和に関する法政策</li> <li>6. 大塚直 日本における気候変動緩和に関する法政策</li> </ol>

## 【セッション3】

開催日時	12月 9日(木曜日) 午前 10:00 ~ 12:00
タイトル	三宅島 2000 年噴火以降の生態系回復過程のモニタリングとその課題
企画責任者	加藤 和弘(放送大学)
趣 旨	三宅島は 2000 年に噴火し、大量の火山灰と火山ガスを放出した。その結果、島のほぼ全体が噴火の影響を受け、森林の 60%が破壊された。島の生態系は現在回復の途上にあり、各分野の研究者により継続的なモニタリングがなされている。孤立度の高い海洋島における大規模な自然災害からの生態系回復について、こうした長期的なモニタリングがなされた例は世界的にも少ない。本企画セッションでは一連のモニタリングにより把握された三宅島の現状を報告するとともに、リモートセンシングをはじめとする今日の環境情報技術の導入など、今後のモニタリングにおける可能性と課題について議論したい。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企画趣旨説明 ○加藤和弘(放送大学)</li> <li>2. 三宅島 2000 年噴火後の研究の経緯 ○上條隆志(筑波大学)</li> <li>3. 成果報告(各 15 分) <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1. ○高橋俊守(宇都宮大学)・加藤和弘(放送大学)・上條隆志(筑波大学) 衛星データに見る三宅島 2000 年噴火後 20 年間のランドスケープ変化</li> <li>3-2. 三宅島 2000 年噴火後の植生回復過程 ○上條隆志(筑波大学)</li> <li>3-3. 三宅島 2000 年噴火後の土壌呼吸回復過程 ○廣田充(筑波大学)</li> <li>3-4. 三宅島 2000 年噴火後の土壌動物群集の回復過程 ○青山友輝(筑波大学), 上條隆志(筑波大学), 吉田智弘(東京農工大学), 金子信博(福島大学), 菅原優(筑波大学)</li> <li>3-5. 2000 年噴火後の三宅島における鳥類群集の回復とそれに関わる環境条件 ○加藤和弘(放送大学)・樋口広芳(慶應大学)</li> </ol> </li> <li>4. 総合討論ならびにコメント (コメンテータ: 樋口広芳(慶應大学))</li> <li>5. 総括 上條隆志(筑波大学)</li> </ol>